

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB	ステークホルダー連携による環境技術の導入・普及推進政策の事例研究				
研究テーマ (欧文) AZ	Case Studies of Public Policies for Introducing and Promoting Sustainable Technologies through Stakeholder Collaborations				
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓) シロヤマ	名) ヒデアキ	研究期間 B	2008 ~ 2010 年
	漢字 CB	城山	英明	報告年度 YR	2010 年
	ローマ字 CZ	Shiroyama	Hideaki	研究機関名	東京大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	東京大学大学院法学政治学研究科 教授				

概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)

本研究において、3つの研究および公開ワークショップを開催した。1つ目の研究としては、既存資料をもとに、環境・エネルギー導入実践事例インベントリ(<http://www.ecojirei.org/>)を作成した。インベントリは国内 358 件の事例を収録した。各事例は Google Map 上で確認できるインターフェイスを設計し(図 1)、地図上のマーカーをクリックすることで個別事例の詳細を確認できるようにした(図 2)。

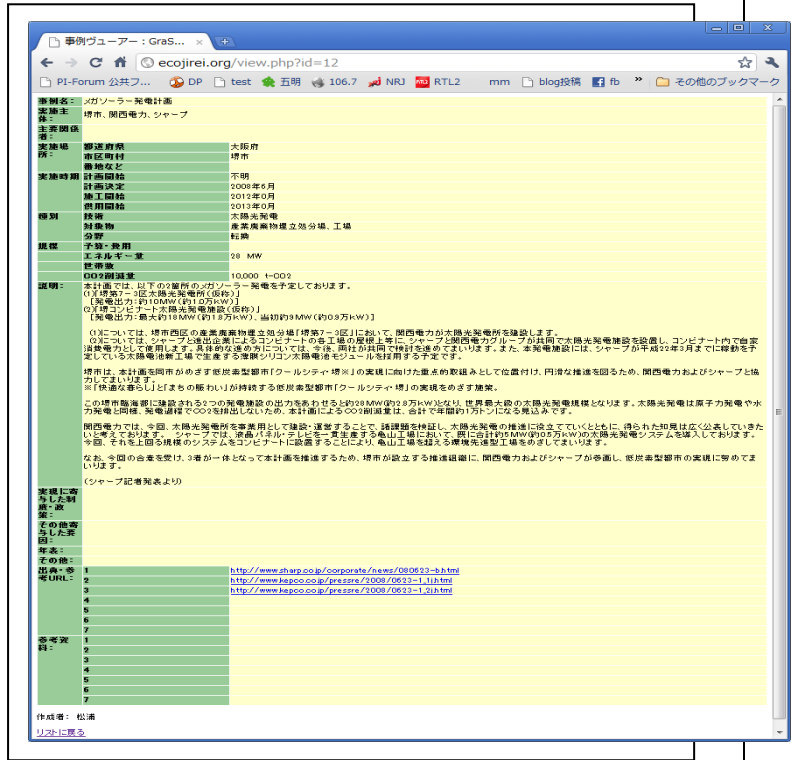


図 1 Google Map における事例の布置

図 2 各事例の詳細

次に、2つ目の研究項目として、ステークホルダー連携が顕著な事例として、農業分野と住宅分野から 3つの事例研究を行い、連携ガバナンスの枠組みで分析した。これらについては、紀要等で発表をしてゆく予定である。

最後に、事例を通観して得られた政策的な示唆について、Rodgers 東京大学教授(元 EU 政策アドバイザー)および Scholz チューリッヒ工科大学教授を招いて公開ワークショップを 2010 年 10 月に行った。この結果については、2011 年以降、社会の“Transition (移行)”を扱う国際/国内学会で発表予定である。

キーワード FA	連携ガバナンス	エネルギー・環境技術	導入事例インベントリ	Transition Management
----------	---------	------------	------------	-----------------------

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA				研究課題番号 AA				
研究機関番号 AC				シート番号				

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	テクノロジーアセスメントとは							
	著者名 ^{GA}	城山英明	雑誌名 ^{GC}	エネルギーレビュー					
	ページ ^{GF}	7～	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	30巻7号
雑誌	論文標題 ^{GB}	多次元のアセスメントの必要性							
	著者名 ^{GA}	城山英明	雑誌名 ^{GC}	科学					
	ページ ^{GF}	575～576	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	8巻6号
雑誌	論文標題 ^{GB}	千葉県香取市の農業政策に関する関係者の問題構造認識に関する分析と実行可能な政策課題の抽出							
	著者名 ^{GA}	加藤亮行, 新藤稔之, 竹山栄太郎, 城山英明	雑誌名 ^{GC}	社会技術研究論文集					
	ページ ^{GF}	107～123	発行年 ^{GE}	2	0	0	9	巻号 ^{GD}	6号
雑誌	論文標題 ^{GB}	逆選択問題解決にデュー・ディリジェンスが持つ機能：リノア赤羽を事例に							
	著者名 ^{GA}	伊藤琢磨, 山口健介, 城山英明（東京大学公共政策大学院ディスカッションペーパー、近刊）							
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}	4	月	予	定	巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}	内窓導入普及に見る連携ガバナンス：住宅版エコポイントを契機として							
	著者名 ^{GA}	加藤亮行, 山口健介, 城山英明（東京大学公共政策大学院ディスカッションペーパー、近刊）							
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}	4	月	予	定	巻号 ^{GD}	

欧文概要 EZ

This project is consisted of three studies and an international workshop as output. First, we made an inventory of the Japanese 358 cases of Energy and Environment (E&E) Technology, which is open to public with the platform of Google Map (See Fig.1, <http://www.ecojirei.org/>).

Second, as an in-depth case study, we focused on three case studies such as biogas plant in environmental agriculture, the diffusion of energy efficient window, and the introduction of smart-mater. In each case, various collaborations are analyzed with the framework of collaborative governance.

Third, based on the analysis above, we draw some policy implications especially in the context of transition. One of the important implications is that some types of collaborations may have critical role for expected transition onwards. On the other hand, the other type of collaboration may end in path dependency as “Lock-in” effect.

As an output, we held an international public workshop on October 2010 with Dr. Michael Rodgers and Dr. Roland Scholtz as discussant. In the workshop, the mechanism of stakeholder’s collaboration and transition was discussed to draw the implication of transition management.

Focusing “transition”, we will pursue the theoretical development based on the achievement in this project.



Fig.1 E&E Technology Inventory